

<修士課程の学位申請要件>

1) 医療福祉学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込みであり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込みであること（ただし、遺伝カウンセリングコースは44単位、TEACCHコースは36単位）。また、修士論文提出前までに、日本学術会議に登録されている学会（川崎医療福祉学会を含む）で1回以上の発表経験を有すること。

2) 臨床心理学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

3) 保健看護学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

4) 感覚矯正学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

5) 健康体育学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

6) 臨床栄養学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

7) リハビリテーション学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

8) 医療技術学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。また、在学中に1件以上の学会発表経験を有し、それに関連した修士論文を作成すること。

9) 医療福祉経営学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

10) 医療秘書学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込みであること。

11) 医療福祉デザイン学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

【修士作品の場合】

「修士作品報告書」に以下のいずれかの内容を含んでいること。

- (1) 県レベル以上の公募展の入賞の経緯
- (2) 社会の中で行ったデザインでのクライアントニーズに対する検証
- (3) 社会評価を受けた展覧会開催の経緯

12) 医療情報学専攻

学位申請年度末で本大学院に2年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を32単位以上修得見込であること。

<修士課程の学位論文審査基準>

1) 医療福祉学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

2) 臨床心理学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 特定の課題については、上記の内容を準用する。

3) 保健看護学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 特定の課題については、上記の内容を準用する。

4) 感覚矯正学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

5) 健康体育学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

6) 臨床栄養学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

7) リハビリテーション学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

8) 医療技術学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

9) 医療福祉経営学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。

4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

10) 医療秘書学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

11) 医療福祉デザイン学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 大学院修士作品について、「修士作品報告書」の内容に基づいて作品の以下の点について評価する。
 - ・ 審美性
 - ・ 新規性
 - ・ 有用性
 - ・ 機能性
 - ・ 計画性
 - ・ 妥当性
 - ・ 独創性
 - ・ 技術性

12) 医療情報学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切に行われている。
4. 論旨の妥当性：論文および口頭発表では論旨の進め方が一貫しており、研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・方法・結果・考察・結論・引用・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。